米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く(134)

石田三成敗走ルートをさぐる③

―東草野谷から古橋へ―

伊吹山麓を駆け抜けた石田三成の思いに迫った今シリーズの最終回です。三成の敗走劇はどのように終わりを迎えたのでしょうか。

敗走ルートの推定
―上草野から古橋へ―

草野谷は、姉川上流の東草野と、草野川上流の上草野・下草野という水系の違う二つの谷から形成されていますが、もともとは、浅井郡に属する同一文化圏でした。かつては、曲谷から上草野の野瀬(長浜市旧浅井町)に出る天吉寺越があり、三成はこれを越えたのかもしれません。現在、車では、吉槻にくだり七曲峠で鍛冶屋(旧浅井町)に抜けるのが唯一の道です。ここから草野川をわずかにさかのぼり西村(旧浅井町)にいたります。

上草野から西に山を越えた田根庄の谷口(旧浅井町)の伝承では「上草野庄(西村)より山路谷口に至り、一民家について茶を求む。主人厚く之を遇す。三成感激して石田の姓と短刀を与えて去る」とあります。いま、西村から谷口まで黒坂峠の林道があり、マイクロバスでもぎりぎり通ることができます。三成は、このあたりで三人の家臣と別れます。田根地域最奥の「谷口」の地名は、三成が目指す古橋を麓集落とする己高山への南からの入り口の位置に当たることを示すともいいます。ここから林道は、小谷山の真裏を越えて古橋につながります。谷口から己高山まで山と山を尾根でつないだ道を「坊さん道(己高山参道)」と呼びます。谷口を南の玄関口にして、山中の社寺を最短距離で己高山山頂の観音寺と結ぶ道。修行僧しか知らない道を三成は選びました。幼いころ勉学に励んだ法華寺(古橋)を訪ねます。

古橋と三成

しかし、東軍方の三成の探索はきびしく「(法華寺の)三成も安居なり難く、加へこの四・五日間、木の葉、落穂を拾い食いして胃腸を害し、歩行もなり難ければ、近くの茶園にかくれ臥しけるに古橋村の(葛原)与次郎太夫というもの、草刈にきてこれを見つけ、己が家に携え至りて切に之を養」いました。しかし、九月二日捕縛され、京都六条河原で斬首となりました。

古橋には、三成の母瑞岳院の墓とされる宝篋印塔があります。寺の過去帳には、三成や兄正澄、母の戒名や命日が記載されています。己高山は北近江の一大仏教文化圏で、伊香郡は「観音の里」といわれるとおり、十一面観音像を中心に多くの集落で古仏が守られてきました。「己高山縁起」(一四〇七)には、当時山頂の観音寺を中心に、尾根筋から山麓、平野部に七ヶ寺が展開して、大きな勢力を誇りました。

居城佐和山城はいち早く攻囲され、生まれ故郷の石田(長浜市)や大原観音寺(朝日)は主要街道に近く帰るすべもない。三成の敗走劇は、はじめから古橋を目指し、己高山山中社寺の僧坊深く、再起を練り直す算段だったことが、伝承をつなげてルートを復元することで見えてくるのではないでしょうか。

(歴史文化財保護課)

▲三成敗走ルートの推定